

兵庫県生物学会 第44回大会報告

日時：平成2年5月26日(土)

場所：姫路学院女子短期大学

日程：

総会 司会 守田 治夫

- (1) 開会のことば 西播支部長 杉田 隆三
- (2) 会長あいさつ 当津 隆
- (3) 会場校あいさつ 姫路学院女子短期大学学長
溝田 弘利
- (4) 来賓あいさつ 兵庫県教育委員会指導主事
上中 一雄
- (5) 兵庫県生物学会研究奨励賞授与
 - ・大川 徹氏 湿原を中心とする植物生態学の研究に対して
 - ・岸本 浩氏 アカマツ林の遷移等植物生態学の研究に対して
 - ・西本 裕氏 アカスジチュウレンジバチの性決定機構の研究に対して
- (6) 感謝状贈呈
 - ・小林 拓郎氏
 - ・竹下 信氏

議事 議長 横山 了爾・橋本 光政

- (1) 平成元年度 会務・事業報告
 - ア 理事会 平成1.4.3 県立兵庫高校
 - イ 第43回大会 5.27~28
神戸市立教育研究所
 - ウ 本部役員会 7.8 垂水 うお仙
11.18 神戸野田高校
平成2.1.22 三宮
 - エ 夏期研修会 平成1.7.2~3 浜坂海岸
8.1~3
神戸大学付属
臨海実験所
 - オ 台湾研修旅行(第2次) 7.24~8.3
 - カ 第16回公開講座 12.2
兵庫県学校厚生会会館
谷口 博氏
 - キ 大会準備委員会 平成2.1.22
県立姫路西高校
(西播支部) 2.3.10
県立姫路西高校

- (2) 平成元年度 会計決算報告・監査報告
- (3) 平成2年度 会計予算案審議
- (4) 平成2年度 企画案審議

ア 理事会 平成2.4.14

- イ 会計監査委員会 5.19 県立明石高校
- ウ 本部役員会 5.21 神戸野田高校
- エ 第44回大会 5.26
姫路学院女子短期大学
- オ 夏期研修会 8.17~18
グリーンエコー笠形・笠形山
8.23~25
神戸大学理学部付属臨海実験所
- カ 第17回公開講座 11.17

(5) 規約改正：

ア 会長選挙について

6. 付則 [1] 会長の選出
- [2] 規約の改正

イ 支部別理事定員数について

支部理事2名
各支部在籍者数30名に対して、理事1名を加える(新規約を参照ください)

(6) 第45回大会 但馬支部担当

(7) その他

会員出版物紹介

・Tetuo TOMIKAWA

BIOLOGICAL STUDIES OF A FRESH-WATER COPEPOD IN JAPAN

・兵庫県生物学会但馬支部 但馬の自然

・細見 彬文 ムラサキイガイの生態

感謝状

小林 拓郎 殿

あなたは永年にわたり 本学会の発展のために尽くされました とくに研究活動の要としての功績は顕著であります 第44回大会に際し会員の総意をこめて感謝の意を表します

平成二年五月二十六日

兵庫県生物学会

会長 当津 隆 ㊟

会長あいさつ

今日、第44回大会を開くにあたり、まず先達の方々への敬意を表します。初代会長森為三博士から第六代会長

室井紳博士に至るまで、学会発展に尽くされた方々の功績をかみしめたいものであります。その会長を支えた方々のエネルギーをひしひしと感じます。

現在は過去の集積であり、未来への保証であると考えることが、今を支えるわれわれの責務であり、新しい研究活動への基本的な姿勢であると思います。それぞれの研究分野を尊重しあい、支部活動、サークル活動の有機結合を強めたいものであります。

本大会開催に際し、県教育委員会、福崎町教育委員会のご後援をいただき、さらに姫路学院女子短期大学、ひめがくキャンパスランドのご協賛を賜りましたこと、あらためて厚くお礼申し上げます。とりわけ、溝田学長には、ご多用にもかかわらず、ご光栄いただき感謝にたえません。この素敵な会場、緑濃く木立静かなキャンパスでの大会が実り多いことを願ってやみません。

最後になりましたが、本大会の運営に当たられた杉田支部長をはじめ西播支部の方々には深くお礼申し上げます。また、姫路学院の関係者、生物学会事務局の皆さんへの感謝の気持ちを申し添え挨拶いたします。

ありがとうございました。

研究発表

- 大川 徹 湿原などの生態学的保全計画について
岸本 浩 再度山周辺のアカマツ林の遷移に関する研究
竹下 信 猪名川下流域における自然林で行う植物生態実習
西本 裕 アカスジチュウレンジバチの性決定機構

記念講演

- 原田 浩 (姫路学院女子短期大学教授・京都大学名誉教授)
「木における極微の世界」
室井 紳 (姫路学院女子短期大学名誉教授)
「植物の見かた・見せかたの工夫」

見学

- ひめがくキャンパスランド：バンブー植物園
バイオガーデン

大会出席者名簿

- 東 克彦 阿蘇 達郎 (加古川西高)
荒柴 博一 (姫路南高) 猪井 隆 (舞子高)
伊賀崎香木 (賢明女子学院) 猪股 涼一 (浪速短大)
岩井いづみ (市姫路高) 石見 たか
上岡 雅和 (明石高) 上田 尚志 (豊岡高)
上中 一雄 (県教委) 内海 功一 (船越昆虫館)
宇那木 隆 (賢明女子学院) 占部 弘樹 (姫路・高丘中)
大川 徹 (神戸女学院) 岡 勇以知 (市伊丹高)
岡村 はた (聖和大学) 岡山 達也 (但馬農高)

- 小国 昭信 (神戸常盤短大) 尾崎 好靖 (野口北小)
垣内 欣治 (東洋大姫路) 梶原 洋一 (鈴蘭台西高)
勝川 光義 (琴丘高) 金澤 龍 (龍野市教委)
甘中 照雄 (福崎高) 岸本 浩 (伊川谷北高)
久後 地平 (龍野高) 後藤 統一 (西宮甲山高)
近藤昭一郎 (夙川学院) 渋野 龍二 (神戸野田高)
清水 淳 (三原高) 杉田 隆三 (賢明短大)
杉田 靖興 (龍野実業高) 鈴木 譲 (兵庫高)
高島 千明 (姫路飾西高) 高橋 匡
竹内千登勢 (福崎高) 竹下 信
田村 統 (山崎高) 寺沢 遼 (灘高)
当津 隆 (姫路学院短大) 富川 哲夫 (夙川学院)
中西 敏昭 (兵庫高) 中野 正臣 (鈴蘭台西高)
西井 隆 (香寺高) 西畑 俊哉 (姫路西高)
西村 登 西本 裕 (小林聖心女子)
橋本 光政 (自然系博物館) 浜田 史郎 (神戸高)
東 敏男 (神戸常盤女子高) 樋口 清一 (川西北陵高)
平畑 政幸 (姫路学院短大) 福岡 譲一
福本 伸男 (播磨養護) 藤原 誠 (山崎・城下小)
藤本 義昭 (藤本植物研) 古田 昌 (香寺高)
松井 淳 (親和女子高) 松本 邦恭 (多可高)
真野 育三 (小野高) 三浦 佳文
向山 俊作 守田 治夫 (姫路東高)
安田 美海 (安田産業) 山田 大介 (市伊丹高)
山田 隆 (長田高) 山本 佳孝
柳田潤一郎 (神戸常盤短大) 横山 正 (福崎高)
横山 雅一 (東灘郵便局) 横山 了爾 (龍野高)
吉田 孝 (淳心学院) 渡辺 猛史 (龍野高)

姫路バンブー植物園の見学

新しくできた“姫路バンブー植物園”を、室井紳先生のご案内で見学した。園内には世界中のタケ類が約500種程植栽され、室井先生の話術の楽しさと相まって、なかなか見ごたえがあった。印象に残った話としては、

◎タケ、ササ、バンブーの違い…タケは竹の皮が落ちる。ササは落ちない。バンブーは、群がって生える。いけ花に用いる。

◎朱竹…非常にめずらしい、稈が朱い。

◎スズゴナリヒラ…料理屋のトイレのところに植えてあり、口臭をとる。

◎キンメイテク…タケの稈を作っている層が三層あるが、その一番上の層の色素がないもの。

◎モウソウテク…日本一大きい竹。

◎コマチダケ…穴がない。

その他、いろんな種類があり、一見の価値がある。竹のことならなんでもわかるという博物館もあり、その中には、工芸品、民芸品、生活用品などが展示してある。

博物館入口の、根がないのに青々としている竹を見て、びっくりした。あれは、小さな穴をあけて、中に水がいられてあるそうである。夏になって園内全体が繁ってくれば、また違った景色になるだろうと思いながら辞した。
(宇那木)

平成2年度 夏期研修会

笠形山観察会報告(8月17,18日)

第1日目

午後1時30分、グリーンエコー笠形に集合。部屋割の後、不用な荷物を置いて宿舎前に集まり簡単な開会式をする。その後自家用車に分乗して越知川へ。古田先生の指導で水中昆虫の採集をし、また、横山(正)先生が投網で捕らえた魚で勉強する。ヒラタカゲロウなどのカゲロウ類、チャパネヒゲナガカワトビケラなどのトビケラ類、カワゲラ類などの幼虫や扁形動物のプラナリアも採集できた。魚ではオイカワ・アユ・カワムツ・ウグイ・アブラハヤ・ヨシノボリ・アマゴ(湖産?)が網にかかった。採集の途中で猛烈な夕立となり宿舎に逃げ返る。但し、横山(正)・横山(了爾)先生はずぶぬれになって頑張られる。夕食時には横山先生の網に掛かった獲れたての魚を炭火で焼いて舌鼓を打つ。

夕食後は先ず横山(正)先生からスライドを使ってニホンバラタナゴの生態やタナゴ類の分類についてのお話を聞く。その後、姫路市立水族館の栃本氏からオオサンショウウオのお話を聞く。調査の7つの道具、個体の識別法、生態等永年の御研究の成果をスライドとビデオを使って御説明下さったが、真夜中の調査のご苦勞が忍ばれた。まだまだお話を聞きたいこともあったが10時を過ぎていたので打ちきりとする。

その後、ささやかな懇親会を開き、自己紹介では各自の現在やっていること、これからしようとしていることなどを語り合った。さらに、橋本先生の採集標本で勉強し、床についたのは午前1時前ではなかったか。(杉田)

第2日目

グリーンエコー笠形の宿舎を8時半頃出発した。一行は15名のうち女性は2名である。登山口に車を置き、坂道を登り始めた。だんだん坂道が急になる。あたりを見ると、コバンノキ、黄色の花をつけたヤマニガナ、ツルアジサイ、マツカゼソウ、葉の裏に毛のあるウスゲクロモジ、ツルニガクサなどがある。胆石病に効くクマヤナギはないかと探していると一株だけ見つかった。少し行った所で穂が直立したオオアブラススキに出会った。初めての出会いなので採集した。このあたりでウラジロノキも数株見つけた。そうこうしているうちに扁妙の滝が一望できる小台地に出た。

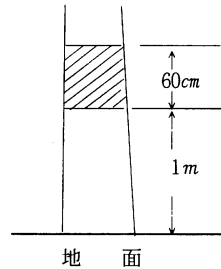
細長い白布を垂らしたように白く見える佳麗な滝が音

もなく流れ落ちている。滝壺に轟音をたてて流れ落ちる滝に比べて、静かで美しい女性的な姿に、しばしの間見とれていた。

そこには、ダンコウバイ、ソヨゴ、アカマツ、コバノトネリコ、ツガ、コバノミツバツツジ、ヒノキ、ナンキンナカマド、ヤマボウシなどが見られた。

また少し行くと、じめじめした登山道にミズゴケがはえていた。ホソバミズゴケかなと話しながら進んでいった。そこには、シラカシ、ムベ、ミヤマママコナ、シキミ、シラキ、トウゲシバ、アブラチャン、ウリハダカエデ、コアカソなどが見られた。そこにミヤマウズラを1本発見した。昭和30年~平成2年までの35年間に4本見ただけであつたので、ひときわうれしかった。

9合目に着いた。ミズナラ、ツガ、モミの大木があり、キバナヤマボクチも見ることができた。少し進んだ所に異様な情景を見た。リョウブの木の地上1m~1.6m位の所が何者かに樹皮をはがされている。1本だけではない。そのあたりのリョウブはすべてである。クマにしては爪あとなし。シカだろうかなどと想像しながら頂上めざして進んだ。



頂上まで15分の所で休憩し、若者等は頂上を征服して下山した。下界は猛暑であつた。研修会に参加してよかったという充実感を味わいながら帰路についた。(向山)

参加者

当津 隆(姫路学院女子短大) 富川 哲夫(夙川学院)
平畑 政幸(姫路学院女子短大)
栃本 武良(姫路市立水族館)

(以上17日のみ)

山本 佳孝 吉田 孝(淳心高)
(以上18日のみ)

東 英三(関西学院高) 伊賀崎香木(賢明女子学院)
宇那木 隆(賢明女子学院) 甘中 照雄(福崎高)
杉田 隆三(賢明女子学院短大) 竹内千登勢(福崎高)
田村 統(山崎高) 中田 浩嗣(淡路盲)
橋本 光政(自然系博物館) 古田 昌(香寺高)
向山 俊作 矢内 正弘(姫路・四郷小)
横山 正(福崎高) 横山 了爾(龍野高)

(以上両日)